

科目名	環境教育特論	担当教員	坪内 俊憲
科目属性	専門科目 B群	単位数	2単位（面接0.5単位）
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>環境教育に関わる基盤知識として、人間が出現できた地球環境の幸運と循環を理解し、地球環境が人間活動によって変化している現状を学修し、人間社会がどうならなければならないかを理解する（科学リテラシーの獲得）。</p> <p>環境問題の原因である人間活動とその原因となっている社会問題を理解するために、国家間、個人間の格差がなぜ拡大し、紛争が絶えないかを考察し、問題の原因となっている人間社会について理解を深める（メディア・政治・経済・リテラシーの獲得）。その理解に基づき、発達段階に合わせて我々の子供達がどのようなことを学習、理解していかなければならないか整理、考察する。</p> <p>その考察に基盤として、収束の気配も見えない福島原発震災と大企業である電力会社、沖縄の米軍基地問題、世界の環境問題とその影響を踏まえ、変化にさらされる地球環境を次世代に残してしまう現世代として、次世代に伝えなくてはならない事は何かを整理し、理解する。森の楽校、プロジェクトワイルド（ProjectWild）、アースシステム教育等の環境教育実践実例、星槎大学の体験型環境教育を学修し、未来社会を作る子供達が理解しておかなくてはならないことを伝えることができる環境教育の実践力の獲得をめざす。</p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の6つとなっています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境・自然環境理解に不可欠な科学リテラシーを獲得する。 2. 人間社会の問題を理解するために必要なメディア、政治、経済について学修する。 3. 科学・メディア・政治・経済リテラシーを基盤として、環境教育で伝えなくてはならないことを整理する。 4. 環境教育計画立案に必要な考え方、理論を理解する。 5. 策定した環境教育計画を実践し、評価手法、計画改善手法を修得する。 6. 地域、学校、生徒の特長を基盤とした実践方法を考察し、“伝える力”を獲得する。 			
<p>【授業計画】</p> <p>全15回の授業計画については、下記のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間が出現できた地球環境の要因を理解する。（地球環境と人間活動、テキスト第1章） ② 人類が依存している地球環境作ってくれた地球環境における循環と歴史を理解する。（同、第1章、2章） ③ 人間活動によって変化し始めた地球環境の現状を理解する。（同、第3章） ④ 上記理解から、どのような未来社会を作らなくては人類の生存が困難になるか、環境教育の基盤知識を学修する。（同、第4章。地球のなおり方、ダイヤモンド社） ⑤ 原発、安保、紛争に関わる情報を整理、考察し、日々接しているメディアからの情報はどのようなものか理解する。（メディアリテラシーの獲得。参考図書） ⑥ 世界の紛争の原因と現状、主権、人権とは何かを学修し、国民、国家、国連とはどのようなものか理解する。（政治リテラシーの獲得。参考図書） ⑦ 国家間、個人間格差の広がる世界において、貿易の現実、世界銀行、IMF、地域開発銀行の行ってきたことを学修し、経済活動とは何か、お金とは何かを考察し、経済リテラシーを獲得する。（経済リテラシーの獲得。参考図書） 			

- ⑧ 森の楽校、プロジェクトワイルド、アースシステム教育など、世界、日本での環境教育の実践事例を資料から学び、伝えなくてはならないことを理解する。(地球環境と人間活動、第3章)
- ⑨ 自らの職場、地域において子供達に伝えなくてはならない課題を見出し、スクーリング発表原稿として取りまとめる。(スクーリング事前課題レポート)
- ⑩ 子供達が地球環境で生きていける社会を築くため、発達段階に合わせて地球環境についてどのように理解していかななくてはならないか整理し、理解する。
- ⑪ 環境教育の対象となる子供達の特長把握、評価、適切な最終ゴールの設定、目標段階、活動計画、マインドフロー、省察など環境教育計画立案に不可欠な要素を学修する。(スクーリング時に学修)
- ⑫ 環境教育計画に必要な各要素を学修し、環境教育計画立案の最初のステップである最終ゴール、目標段階、活動フローを策定する。(スクーリング時に学修)
- ⑬ 発表、ディスカッションを通して、自らの教育現場、あるいは地域において実施できる具体的な環境教育計画を策定し、環境教育実践計画をまとめ、課題レポートとして提出し、計画立案手法を修得する。
- ⑭ 取りまとめた環境教育実践計画を実施し、結果を評価して科目修得試験レポート方式として提出し、計画を改善し、環境教育計画を改善していく過程を学修する。(実践と評価、フィードバック手法の学修)
- ⑮ 地域、学校、生徒の特長に合わせて計画を改善し、より良い環境教育実践計画を考察し、伝える実践力を獲得する。(環境教育における伝える力の獲得)

【評価方法】

事前レポート 20%、スクーリング 30%、課題レポート 30%、科目修得試験 20%となります。スクーリング評価は、スクーリング時の積極的な発言と発表内容になります。

【教科書】

- 坪内俊憲・保屋野初子・鬼頭秀一（共著）共生科学概説「人と自然が共生する未来を創る」 ISBN978-4-7740-8006-2
- ドネラ・メドウズ・枝廣淳子.(2005).地球のなおし方～限界を超えた環境を危機から引き戻す方法,ダイヤモンド社. ISBN-13:978-4478871072

【参考図書】

- ノームチョムスキー著、2003年、メディアコントロール、集英社新書 (ISBN-13:978-4087201901)。
- 上杉隆著、2008年、ジャーナリズム崩壊、幻冬舎新書 (ISBN-13:978-4344980884)。
- J・パーキンス著、2007年、エコノミックヒットマン、東洋経済新報社 (ISBN-13:978-4492211694)。
- 矢部宏治著、2014年、日本はなぜ基地と原発を止められないか、集英社インターナショナル (ISBN-13:978-4797672893)。
- J・P・ボリス著、2005年、コーヒー、カカオ、米、綿花の暗黒物語、作品社 (ISBN-13:978-4861820618)。
- キャロル・オフ著、2007年、チョコレートの真実、英治出版 (ISBN-13:978-4862760159)。
- J・スティグリッツ著、2002年、世界を不幸にしたグローバリズムの正体、徳間書店 (ISBN-13:978-4198615192)。
- トマ・ピケティ著、2013年、21世紀の資本、みすず書房 (ISBN-13:978-4622078760)。
- 小林毅著、2003年、森の楽校 (ISBN-13:978-4635520324)。長谷川孝一著、海の楽校、2003年 (ISBN-13:978-4635520300)。皆川哲著、2003年、川の楽校 (ISBN-13:978-4635520317)。湊秀作著、2004年、田んぼの楽校。山と溪谷社出版 (ISBN-13:978-4635520331)。

【参考図書】

- 日本ネイチャーゲーム協会、小学校の授業に生きるネイチャーゲーム、子どもと自然とネイチャーゲーム 保育と授業に活かす自然体験。

【参考 URL】

- <http://www.unfpa.or.jp/publications/index.php?eid=00042>
- <http://earthsys.ag.ohio-state.edu/project/pubs/ACES.html>
- <http://www.ohio.edu/cas/geology/>
- <http://www.projectwild.org/documents/projectWILD.pdf>
- <http://www.projectwild.org/ProjectWILDK-12CurriculumandActivityGuide.htm>
- <http://www.projectwild.jp>
- <http://www.zeitgeistmovie.com> “映像資料：Zeitgiest（時代の精神）”